

第4期計画の振り返り

(1) 主な取組と成果

〈基本目標1：支えあいと助けあいのあるまち〉

- 地域内の福祉活動団体・ボランティア団体に限らず、地域のサークル・団体・企業等との連携により、地域活動を行うことができています。
- 民生委員・児童委員の活動、みまもりネットの協力事業者、子育て連絡会、認知症カフェの情報交換等をとおして、地域の助けあいの活動の広がりが見られます。
- 認知症に関する啓発事業、障害者週間シンポジウムでの当事者からの発信、学校等での福祉教育、障害者施設など関係機関による横のつながりを生かして、また書店との連携による啓発活動を広げ、地域の方への啓発を進めています。
- 子育てや介護をしている人同士のつながりを通して、課題やニーズに合わせた取組が推進されています。

〈基本目標2：みんながふれあう場のあるまち〉

- 高齢者サロン、子育てサロン、地域食堂や子ども食堂など多様な形の地域活動団体の取組が広がっています。
- ボランティア入門講座や地域づくり大学校の開催等により、活動のきっかけを作り、地域活動をより身近に感じてもらうことで活動につながっています。
- 社会福祉法人施設や地区社協が話し合うことにより、多様な主体が地域課題や個別課題を共有することにつながっています。また、区内大学との連携した取組も進み、新たな人材の発掘にもつながっています。

〈基本目標3：安全・安心、人にやさしいまち〉

- 地域防災拠点訓練、マンション防災の取組（情報交換会等）、災害時要援護者支援説明会での実技演習の実施等をとおして、災害時の助けあいの仕組みづくりが進められています。
- 日常生活の行動（ランニングやウォーキング、犬の散歩など）とむすびつけ、地域の見守りや防犯活動が広がりました。
- 権利擁護に関する講座、こどもの権利に関する広報や研修の開催、エンディングノートの配布を通して、一人ひとりの権利が守られ、自己決定するという環境づくりが進められています。
- 食品配布会や区内イベント等で幅広く、生活困窮者支援の制度や相談先の周知等を進めることができました。また、区内高校との連携を深め、福祉制度の周知及び新たな担い手として活動の一端を協働し、様々な関係機関との連携強化を図ることができています。

〈基本目標4：いつまでも元気で健やかに暮らせるまち〉

- 働き世代への健康づくりの機会の提供、大学との連携した取組の実施、子育て世代へ公園遊びの機会をつくる等、様々な世代に向けた取組が行われ、健康づくりの機会が広がりました。

- 介護予防ボランティア養成講座の開催や、保健活動推進員・青少年指導員・スポーツ推進委員・食生活等改善推進員（ヘルスメイト）等の活動を通して、地域での健康づくり活動が広がっています。
- 在宅医療相談室や在宅療養連絡会との連携、医療機関同士の横のつながりの強化等、医療・保健・福祉の連携が進められています。

(2) 第5期計画への課題

- ・「支援する側ー支援を受ける側」ではなく、「**お互いさま**」の**関係づくり**
- ・**多様性（個性）**について、関係者だけでなくより多くの人に伝えていく必要
- ・**様々な背景や価値観**を持つ人同士が、お互いのことを分かり合えるような取組
- ・**ヤングケアラー、不登校・ひきこもり（8050 問題）、ごみ屋敷**といった事象への対応
- ・支援を必要としている人へ、**必要な支援が届く仕組みづくり**
- ・**子どもが安心して遊べる・過ごせる公園・場の存在**
- ・**障害のある方の孤立**、周囲からの**理解、関わり方**がわからない
- ・**学齢期**の土日の居場所、教育格差、**いじめ、発達障害**への理解
- ・**情報**が届かない、**つなぎ先**がわからない、橋渡しができない
- ・**学校**との連携
- ・**企業**との連携
- ・**当事者**の方に届いているのか。
- ・支援につながっていない人や**子どもの声**が聴けていない。
- ・地域活動に参加したい**外国人**が受け入れられるために、受け入れ側や支援者の理解や配慮が必要
- ・切れ目のない支援につながる当事者への情報提供や関係機関の連携
- ・**継続的な場づくり**のための人材確保
- ・**災害時要援護者**が発災時に取り残されないよう、**日ごろのつながりづくり**
- ・さまざまな複合的課題を抱えた方への支援に関係機関の連携強化が必要
- ・**昼間に大人が地域にいない**